平成 23 年度　自己心理学研究分科会活動報告

平成 23 年度の自己心理学研究分科会の主な活動は以下の通りであった。

Ⅰ．自己心理学関連のワークショップ・シンポジウム

日本心理学会第 75 回大会（2011 年 9 月 15 日～17 日・日本大学）

(1)「大学生の友人関係とキャリア発達」

企画者　　岡田　努（金沢大学）
司会者　　岡田　努（金沢大学）
話題提供者　　岡田　努（金沢大学）・榎本　博明（名城大学）・下村　英雄（(独行)労働政策研究・研修機構）・山浦　一保（立命館大学）

本ワークショップは，大学生の友人関係のあり方が，青年自身の自己のあり方やキャリア意識の形成とどのように関わるかについて，実証的なデータに基づいた提言を行うことを目的で行われた。

本ワークショップのメンバーにおける共同研究の構想と概要について過去２回のワークショップを行ってきた。今回は，その検討結果検証されたモデルの構造についての報告とともに，新たな研究成果について報告した。

(2)「コーチング心理学の理論と実践――QOL を目指すコミュニケーション技法と心理アセスメントについて――」

企画者　　徳吉　陽河（東北大学）・堀　正（群馬大学）
司会者　　徳吉　陽河（東北大学）
話題提供者　　堀　正（群馬大学）・中谷　陽輔（同志社大学）
指定討論者　　北村　勝朗（東北大学大学院）

コーチング心理学は，我が国で 20 年ほどの歴史をもつコーチングに心理学の理論を応用して発展・統合させたものである。急展開を見せるポジティブ心理学などを統合しており，その構成内容に関しては，認知行動療法，ゲシュタルト療法などの既存の心理療法をポジティブに応用した技法やコミュニケーション技法を統合したモデルがある。『コーチング心理学ハンドブック』（2011 年に金子書房より出版）には，こうした技法が詳細に論じられている。

本ワークショップでは,『ハンドブック』の内容を紹介しながら，これからコーチング心理学が，教育，社会，経営，認知，組織，健康，福祉，行動科学，スポーツ，コミュニケーション技法など，多くの人間行動の領域でどのように利用できるかについて，統合的，学際的な学術研究の立場から議論を深めた。また，認知行動コーチングをはじめ，いくつかの技法について紹介し，心理測定・アセスメントの可能性についても提案を行った。

(3)「自己心理学における文化の問題（９）」

企画者　　小林　亮（玉川大学）
司会者　　小林　亮（玉川大学）

話題提供者　大和田　智文（関西福祉大学）・塘　利枝子（同志社女子大学）
・神藤　貴昭（立命館大学）
指定討論者　榎本　博明（名城大学）・東　洋（東京大学）

本年度のワークショップでは，自己心理学研究におけるアイデンティティ形成と文化的意味体系との関係に焦点を当て、そこにどのような発達的課題があるのかを検討した。大和田氏は、我が国の若者における自己形成のあり方について、自己カテゴリ化理論を用いて詳解し、若者の自己形成にはどのような特徴がみられるか、そこからどのような「若者文化」を読み取ることができるのかを考察した。塘氏は、教科書の内容を伝達する重要な担い手である教師に焦点をあてて、教科書に描かれた葛藤処理方略をどのように評価し解釈しているかについて分析した結果を発表した。神藤氏は、子ども歩き四国遍路という実践を通して、四国の子どもたちが、「地域文化」「大人という文化」にどのように参入し、「自己」を変容してゆくのかについて考察した。

これらの話題提供を受け、本研究領域で指導的役割を果してこられた東洋、榎本博明の両先生に指定討論をして頂いた。

Ⅱ.『コーチング心理学ハンドブック』（金子書房）の刊行

本研究会員の堀正氏を監修・監訳者とし，本研究会が一丸となって翻訳を行った『コーチング心理学ハンドブック』邦訳版が金子書房から刊行された（2011 年 7 月 30 日）。

本書籍は，“伝統的な心理学理論とポジティブ心理学からの知見をもとに，さまざまなコーチングアプローチを精査し，実践をより実り多いものとする方途を探る”とともに，“個人の潜在能力を最大限に活用して組織を活性化するコーチングに心理学から確固とした基礎づけを与える”ものである（ “” 内は金子書房 HP より抜粋)。

この試みは、組織的視点も含めつつも「自己」に迫ったものであり，自己心理学のさらなる展開と議論の深まりに寄与することが期待される。現在、次の企画も進行中であり、今後も本研究会が中心となり、自己心理学の領域の確立とさらなる発展を目指していきたい。

Ⅲ．定例合宿の開催

自己心理学研究会の定例合宿（夏期・冬期に一回ずつ）を開催した。2011 年は，2 月 27 日～3 月 1 日に静岡県熱海市，8 月 25 日～27 日に静岡県伊東市にてそれぞれ開催された。研究会の会員による研究発表と討論を行い，自己心理学的研究の個別テーマに関する活発な議論が行われた。

Ⅳ．研究会機関紙『自己心理学　第 5 巻』の発行

自己心理学研究会機関紙である『自己心理学』の第 5 巻について，2012 年 3 月に発行した。

第 5 巻では，次の 5 名の論文を記載する（氏名かな順）: 伊田勝憲（北海道教育大学）・梶原恵子（九州保健福祉大学）・仲川清隆（埼玉学園大学）・古澤照幸（埼玉学園大学）・吉武重徳（九州保健福祉大学）

■ 研究会の代表者・連絡担当者

代表者：榎本博明
事務：中谷　陽輔